



「学び続ける教師」であり続けるために

大隅教育事務所指導課 主任指導主事 宮路 直子

春の花々が咲き誇り始め、令和4年度の締めくくりの時期を迎えました。本年度も合同計画学校訪問をはじめ、地区主催の各行事への取組に対し、心から感謝申し上げます。

さて、私は、初任研の際に「教學一如」の精神と出会い、以来その具現化に向けて、担任のときもJTEのときも、ずっと次の2点を重視してまいりました。

1点目は、「一人一人の子供たちを大切に思うこと」です。個性を重視し、各々の状況に応じて適切に指導・支援すること。これは、現在、「令和の日本型教育」で唱われている「個別最適な学び」の考え方にも通じます。

2点目は、「学級という集団の成長を目指すこと」です。これは、現在の「協働的な学び」の考え方にも通じます。

これまでの教職人生を振り返ると、立場が変わっても、この考え方は変わりませんでした。各主任（学年・教科等）では、一つ一つの学級を大切に思い、その学年部・教科等部の成長を目指しました。三主任でも同様でした。管理職では、一つ一つの学年部・教科等部を大切に思い、各組織や学校全体の成長を目指しました。行政では、一校一校の学校を大切に思い、管内全体の更なる発展を願ってきました。

そして、これらの考え方の全ての先に「子供たちのために」という思いがありました。

子供たちが自分の夢や希望に向かって、幸せに生きていく上で必要な力を付けるには、教える側の「研修」が大事です。「研究」と「修養」を重ね、まずは、「分かった・できた」喜びや楽しさを味わわせる授業を展開することが大切だと改めて実感しています。

私たち大隅教育事務所の指導主事も、日々研修し続けています。

課内での研修に「テーマ研修」「還元研修」「読書指導研修」も取り入れ、互いによりよい指導助言ができるように努めています。



「よか問」や「大隅学力向上リーフレット」等は、その成果物です。ぜひ、各学校で、効果的・継続的かつ計画的に活用していただくようお願いいたします。

「教學一如」の言葉を念頭に研修を進める中で、地区研究協力校等の研究公開やコアティーチャー、教育活動実践記録、自主研究会等、学び続ける先生方との出会いも数多くありました。私も微力ながら努力し、生涯学び続けていきたいと思っております。

令和4年度 鹿児島学習定着度調査の結果について



【担当】

野口 豪
指導主事

【目標】全教科で「通過率7割以上」、「県平均以上」

【結果】 14教科中5教科 ★ 14教科中1教科

| | | 国語 | 社会 | 算・数 | 理科 | 英語 |
|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 小5 | 地区 | 70.6 | ★77.8 | 66.6 | 71.5 | |
| | 県 | 70.9 | 77.5 | 67.4 | 71.7 | |
| | 差 | -0.3 ↓ | +0.3 ↓ | -0.8 ↓ | -0.2 ↓ | |
| 中1 | 地区 | 69.0 | 64.4 | 69.9 | 60.9 | 73.2 |
| | 県 | 70.4 | 68.4 | 70.9 | 63.2 | 75.7 |
| | 差 | -1.4 ↓ | -4.0 ↓ | -1.0 ↑ | -2.3 ↓ | -2.5 ↑ |
| 中2 | 地区 | 69.5 | 54.1 | 72.4 | 62.4 | 66.0 |
| | 県 | 71.0 | 54.9 | 72.6 | 62.5 | 67.8 |
| | 差 | -1.5 ↓ | -0.8 ↑ | -0.2 ↓ | -0.1 ↑ | -1.8 |

【考察】

↑↓ 令和3年度との比較

全体的に「思考・判断・表現」に関する問題の通過率が低い傾向にあります。「複数の資料から必要なデータを見いだす問題」や「授業の対話場面を用いた問題」などに対応していく授業づくりが必要です。

14教科中もっとも通過率が低い問題

中2国語「漢字の読み」

決勝戦は**惜敗**した。

通過率9.3%

※ 1,498人(1,652人中)が読めず

なぜ、読めないのか？

〔誤答例〕

ざんばい

新出漢字「惜」の用例を確認していない。

しゃくはい

「惜」と「借」を間違えている。

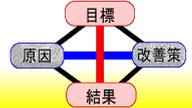
〔授業改善に向けて〕

「惜」→中1「漢字に親しもう6」

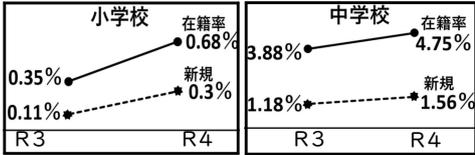
「読み方」「部首」「用例」まで確認する。

「誤答は宝」です。「誤答」には、つまずきの原因が凝縮しています。分析し、授業改善に生かしましょう。

令和4年度の「振り返り」



小・中学校における不登校の状況



「昨年度の在籍率を超えない」を目標にしましたが、増加の傾向を止めることができませんでした。

改めて、不登校の要因や背景に応じた確かな働き掛け・関わりが大切だと強く感じた1年でした。

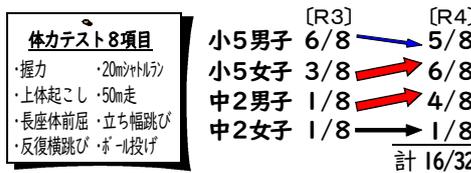
生徒指導提要改訂を機に、不登校支援の具体策を再度整理したいと思っています。

★★★★☆

不登校の改善
大迫 剛
指導主事



体力テストの県平均以上の項目数



全国体力・運動能力調査(小5・中2)では、半数の項目が県平均以上でした。特に県平均以上が増えた小5女子と中2男子は、総運動時間も全国平均より長いという結果が出ています。

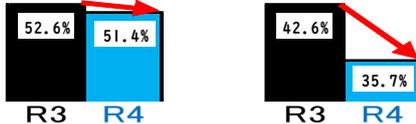
今後、体育学習や日常的な取組で運動時間をより一層確保し、継続的に運動に取り組ませることが体力向上のポイントです。

★★★★☆

体力・運動能力の向上
福元 健一郎
指導主事



地域行事への参加率



目標は「前年度地区結果の+5%以上」でしたが、小・中学校ともに減少する結果となりました。コロナ禍の影響もあるかと思っています。

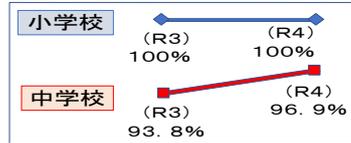
次年度は、地域行事や子ども会活動など体験活動の充実を呼び掛け、児童生徒の郷土愛を育むことにもつなげていきたいと思っています。

★★★★☆

地域・家庭の教育力の向上
東 浩二
指導主事



道徳科の授業公開実施率



授業公開(全学級・一部)の実施率は、昨年度から、小学校が100%を維持し、中学校が93.8%から96.9%に増加しました。

家庭や地域社会と道徳教育の連携を深める手立てとして、授業公開は効果的です。

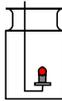
また、全ての学級が公開することで、各学年の発達の段階の違いによる指導の様子を具体的に知ってもらうことができます。

★★★★☆

道徳教育の充実
宮路 直子
主任指導主事



酸素と二酸化炭素を50%ずつ集気びんに入れて、火のついたろうそくを入れるとどうなるのだろうか。



上の学習問題は、本年度の地区臨時的任用教員研修会で、参加された先生方に子供役をお願いし、私が小学校理科の模擬授業を行ったときのものです。

大人でも迷う問題ですので、子供たちの知的好奇心を刺激し、思考力・判断力・表現力を高める授業となります。

本年度も、事務所主催で行う各種研修会は、内容等の工夫を重ねてきました。

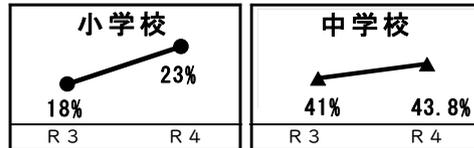
来年度も、積極的な参加をお願いします。

★★★★☆

教職員の資質向上
久保 博之
指導主事



がん教育の実施(外部講師の活用)



外部講師を活用した「がん教育」の実施については、小・中学校共に前年度を上回りました。主な講師は、「がん経験者」「がん関連団体職員」です。多様な人材が参画し、それぞれの専門性やこれまでの経験を十分生かせるような指導の工夫を行うことが大切です。県の「がん教育総合支援事業」等も、ぜひ活用してください。

★★★★☆

健康教育の充実
長野 一成
指導主事



東串良町立 池之原小学校

[R5.2.2地区研究協力校公開]

2年間、算数科を中心にUDの視点を生かした授業改善に取り組まれました。研究の一部を紹介します。

授業のユニバーサルデザイン化

視覚化 共有化 焦点化



環境のユニバーサルデザイン化

場の構造化 時間の構造化 学業指導



フレッシュ研修



研究授業研修【教科】の様子

1年間の研修を通して、一人一人の確かな学びにつながったことを感じています。今後の更なる活躍を期待します!!

研究授業研修【教科】から
研修を通して、教師としての使命感に改めて気付くことができました。プロの教師として学んだことを常に意識して教壇に立ちたいです。(小)

研究授業研修【道徳科】から
生徒の心に届く授業をつくり上げていかなければならないと感じました。新しいものを取り入れながら、日々努力を怠らないようにしていきたいです。(中)

授業改善 1Pointアドバイス⑥

構造化 ※ 構成要素間の関係を整理すること

「〇〇の構造化」→「板書の構造化」「単元の構造化」「学習環境の構造化」等。「構造化」とは、ズバリ、「一目で分かる」こと。この「一目で分かるように工夫しよう」という意識が、教師には強く求められる。